



降り続く雨のために『ヨハネ祭』が創立以来初めて中止の運びとなりました。河原に集い、夏至の夕暮れのひとときを皆で楽しむ季節の祝祭のひとつでした。今年集えなかったことは惜しくもありますが、そのぶん、巡りくる次の機会を一層慈しむことができるでしょう。耳をすませば、遠く蟬の音が聴かれるようになり、長い梅雨の終わりを予感させてくれます。

\*\*\*\*\*

## 留学生を迎えて

今年度、7年生は1学期にアメリカからの短期転入生を二人受け入れました。一人はハワイ出身の女の子で、もう一人はカリフォルニア出身の男の子です。昨年度の終業日、「連絡があります。」と言って生徒たちを座らせると、間髪を入れずに「転入生ですか?!」という声が上がりました。いままで何度となく繰り返されてきたやりとりです。いつもは「残念ながら違います。」となるところが、今回は「実は、そうです。」と返ってきたので、教室はとたんに「えー!」「うわぁ」「やったあ!」と沸きかえりました。「男子?女子?」「女の子です。」(男子笑顔で)「うへえ女子かあ、このクラスは女子が多すぎるよー。」(女子にやかにやして)「イエーイ。」「でもクラスにいるのは一学期だけです。」「なんだそうなの。」「…。」「そして英語しか話せません。」「…。」彼らの表情が驚きでなんとも言えないものになりました。「いいよ、新しい子が来るだけで嬉しい。」「大丈夫、ジェスチャーで伝わって。」皆すぐに気をとり直して、未知なる出会いに期待を膨らませ、その日を待ちました。

エマは4月の終わりからやってきました。おとなしく控えめな印象で、身長も自分たちと変わらないくらいのエマに、彼らはすぐに親しみを感じたようでした。初めの一週間のクラスは歓迎の雰囲気にあふれていて、休み時間になると折り紙を教えたり、かるた取りに誘って、エマの周りに人垣ができていました。ちょうど令和に改元した時だったので、天皇と元号の英語の説明メモを握りしめている生徒もいました。みんな「英語に自信がない。」と言いながら、学校生活のことを教えようと、単語をひねり出しました。エポック授業はもちろん全て日本語です。世界史の授業などはほぼ何を話しているかわからなかったでしょうが、時折知っている固有名詞が出てくるとエマは頷いて聞いていました。「日本語を学びたい」と言ってノートも黒板の文字を見よう見まねで写し、一生懸命に取っていました。生徒たちが英語の授業を受けている間は、前半は私がエマに日本語を教え、後半はクラスに合流しました。そこで生徒たちは英語の先生の助けを借りながら、エマのことやハワイのことを知る機会になったようです。



またエマがきていた時は、ちょうど学園祭の時期でした。エマはカフェチームに入り、8・9年生とともに試作に励んだり、当日の接客も体験しました。9年生は言葉の通じない彼女に丁寧に説明をしてくれ、チームに溶けこめるように気を配ってくれました。エマと生徒たちの学校生活を見ていて気づいたことは、生徒たちは誰か困っている人をそのままにしておかないということです。誰かが困っていたら皆で手を差し伸べ、協力して解決をするのが当たりまえ、という姿勢が生徒たちの間に自然と育っているのを感じ、心強く思いました。エマもそれを感じ取って、最後に「皆がとても親切で、仲間に入れてくれようとして嬉しかった。」と言ってハワイに帰って行きました。

エマと入れ替わりで、アーロンがクラスにやってきました。彼はお母さんが日本の方で日本語がある程度通じます。授業では彼は英和辞典、隣の席の生徒が和英辞典を持ち、二人で協力して発言もしてくれます。

この短期間に二人も海外から短期転入生がやってきたことは、7年生にとって嬉しく刺激的な体験でした。違う文化に生きる同じ年の子どもと一緒に過ごすことで、それぞれに肌で感じるものがあつたことなのでしょう。そして違いと同時に、自分と変わらないものも感じたと思います。かけがえのない一学期を過ごすことができました。

(7年担任 太田初)

## 【連続講座 「シュタイナー学校を知りたい!」】

7月7日に、毎回好評をいただいている「シュタイナー学校を知りたい!」講座を開催しました。この日は、午前午後と分けて、低学年編・高学年編の計3講座を開催しました。

\*\*\*\*\*



2019年7月7日、連続講座「シュタイナー学校を知りたい」を開催しました。

午前中に霧が丘校舎で低学年編「九九(かず)」と「音楽」、午後は高学年編「幾何学」という、大人のための体験講座でした。

「100分の“エポック授業”とはどんな風に行われているのか」「低学年の学びの導入は?」「高学年の学びはどんな風に進んでいくのか、学力は身につくのか」など、よくお問い合わせいただく様々な質問に対して、言葉で伝えるよりもまずは体験して感じていただきたいと考え、これまでも体験講座を開催してきました。

今年は、教室を広い場所に変えるほど、たくさんの方にご参加いただきました。変貌する社会の中で将来の見通しを立てにくい世相を反映しているのでしょうか、お子さんのこれからの教育を考える方々の関心の高さがうかがえました。

「(シュタイナー学校では)子どもたちの成長に沿って考えられたテーマが、いくつもの教科にまたがって学びが繰り広げられていきます。また、1年生から9年生という縦軸でも、学びは空へ向かって伸びていく鳥のように絡まりながら進みます。」と高学年幾何学の体験授業を担当した教師は語ります。

我が子が受けている授業を体験したいと、参加した保護者の感想文です。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

朝からシトシトと雨が降る7月7日、おりひめさまとひこぼしさま、お空で会えるかなと娘と話しながら学校へむかい、低学年「かず」の講座に参加させていただきました。

シュタイナー教育は、頭だけではなく、リズムに合わせてたりしながら体もつかって学びます。そうすることで、学びがこどもの奥深くまで染みこんでいくことを、娘の学ぶ姿をみて日々感じており、ちょうど九九を学んでいる娘と同じ体験をしたいと、今回「かず」の講座に参加させていただきました。

まず、オイリュトミー室で、参加者みなで円になり、「かず」を体で感じる体験をしました。ファンタジーのお話の

なかで、数を体全体で感じる、とても新鮮でかすが心にすつと溶け込んでくるような感覚がありました。

つぎに、教室へ移動し、九九の糸掛けの体験をしました。1の段から順々に糸掛けをし、五角形や星型など素敵な形が作られます。そして、5の段を境にして、1の段と9の段、2の段と8の段、3の段と7の段、4の段と6の段が鏡うつしになっていることを、糸をかけながら体験します。

ちょうど、6月のエポックで娘が九九を学び、「ママすごいんだよ。数にはね、お空の星とかがあるんだよ。」と、帰宅してから何度も紙に描いていおり、「かず」ってなんて美しいんでしょうと娘と一緒に興奮していたことを、実際に体験させていただけました。

こんな風に「かず」と出会い、体験できる、素敵な学びをしている子どもたちは、この学びに出会っていない子どもたちとは違った世界を見ているに違いないと思いました。

数との出会い方、学び方が、生き方に大きく影響するそうです。シュタイナー教育では、常に全体から学び始めます。1+1=2というような決まった答えひとつを導き出すのではなく、10になるには、どんな数の組み合わせがあるだろう?するとたくさんの組み合わせが子どもたちの中からできます。

たくさんの答えがあり、いろんな考え方や導き方があっていいんだということを学びます。

そうすると、人生で何か問題がおきたときに、正しいか間違っているかの観点ではなく、問題を乗り越えるために、新しい可能性や方法を生み出したり、相手の考えを受け入れたりする、柔軟な思考をもって、問題を乗り越えることができます。

今回の講座で、日々の学びが、子どもたちの中に、大きな力を育てているんだと、実感しました。そして、ここで学ばせていただけることに改めて感謝する時間となりました。ありがとうございました。

(2年保護者 伊橋舞)

連続講座「シュタイナー学校を知りたい!」第4回目  
講演会「豊かに育つ子どもたちの話」

日時: 9月1日(日) 10:00~12:00

講師: 長井麻美(2014年卒1期生・2019年卒6期生担任)

参加費: 1回/1,500円(一般)・1,300円(NPO会員)

要申込み

## 【シュタイナー教育 100 周年を横浜シュタイナー学園内でも祝う！】

シュタイナー教育 100 周年という節目を祝い、この教育への理解をより深めようと、プロジェクトチームが春から活発に活動しています。そのひとつとして、保護者と一部外部向けの講座が開催されました。

### 色彩論を企画して

Y100 という、今年のシュタイナー学校設立 100 周年目という節目を祝うための活動をするプロジェクトチームから、9 年生を送り出したばかりの長井先生に何か講座を開いてもらえないかという提案をしたところ、快く受けてくださった。プロジェクトとしての最大の目的は今年の 9 月にドイツで開催される世界大会に研修に行く先生たちの渡航費を少しでも支援したいというものである。そのためにイベントや講座などを企画し、収益を寄付しようということ考えた。講座については神田昌実先生も話を受けてくださり、6 月中に 2 つの講座を実施することとなった。長井先生の講座の内容は色々考えたものの、先生から「色彩論の講座にしましょう！」という提案があって時間や会場もババパッと決まっていた。回数については最初から先生から 3 回連続講座でと言われていたが、日程の調整の中で、ふと「2 回ではどうですか？」とたずねたことがあった。すぐさま、先生から「いえ、2 回では足りません。3 回がいいです。」と返ってきた。そして、なるべく 3 回連続で受講してほしいと。そして色彩論については会場の兼ね合いで保護者以外の NPO 会員も対象とすることとなった。告知を始めてから、なかなか参加者が増えない状態がしばらく続いたものの、当日までには申し込み欄がほとんど埋まっていた。楽しみに迎えた講座の初日は会場の窓を全て黒い紙で覆い、光を閉ざした空間の中で始まった。実験を交えながら「光とは何か?」、「色とは何か?」ということを学んだ。普段頭でっかちな生活をしている大人にとって、どんどん頭の中がほぐれていくようだった。目の前の世界が一段と広がったような気がした。学ぶ、ということはどういうことなのかと、とても新鮮な気持ちになった。また、子どもたちはこうした学びをしているのか、ということに対しても大変な感銘を受けた。担任の先生から保護者会などで今やっている学びについて聞く機会があるものの、実際にそれを体験する（授業を受ける）こととはまるで違うと思った。講座では毎回クレヨンや色鉛筆でノートに色を塗り、色と色の関係性やそこから感じられることについてみんなで考えたり、教わったりした。とても奥深い内容で、「先生、3 回では足りません」と言いたくなった。それは受講された多くの方が同じことを思っていたようだ。有り難いことに講座には毎回 22 名以上の方が参加、その内、全て受講された方は 14 名いらっしゃった。他にも嬉しいことがあった。遠方の会員の方で、わざわざ連絡をくださり、講座を受けられないけれど先生たちに寄付をしたいという連絡をいただいた。お礼を申し上げると、「一緒にドイツに行った気持ちになれるから」と言ってくくださった。このようなあたたかい想いに触れ、普段学園がたくさんの方々によって支えられているのだということを実感することができた。もう一つ企画した、てしごと講座についても書きたいことはたくさんあるが、今回は参加者の紙谷さんが感想を書いてくれたのでまた別の機会にしたいと思う。協力してくださったお二人の先生、参加してくださったみなさま、心を寄せてくださったみなさまに感謝申し上げます。心より、ありがとうございました。

(Y100 プロジェクト 1,4 年保護者 松山周子)

### てしごと講座感想

6 月 9 日、6 月 30 日に Y 1 0 0 企画による神田昌実先生のてしごと講座が開催されました。

6 月 9 日

『まずはご自分の指抜きを作ってみましょう！』昌実先生の声がお部屋に響きました。付箋程の大きさの皮布を輪の形にし、手に馴染む特製の指抜きが出来ました。

この指抜きを使い次は運針（うんしん）をしました。利き手の中指に指抜きをはめて親指と人差し指で針を持ち、指抜き（指の背）に押し当てながら針を進めていく方法を運針と言います。慣れると手元を見ずに早く細かくまっすぐに縫うことが出来ます。まさみ先生の運針は魔法のようで歓声が上がっていました。皆さんからは「筋肉痛になりそう!」「無心になれる!」などという声が聞けました。

運針をしばらく続けたのち、刺し子に入りました。今回は個々で「刺し子キット」という、予め縫い柄が印字されている布を用意して頂きました。印字の通りに縫うと柄が出来上がります。麻の葉や星、季節の絵などの柄がありました。刺し子をする際に運針を使う方もいました。

合間に昌実先生から「定規を使わず布に直線を引く」「糸を外側に見せずに折り目の中を縫う」などの手法を教えてくださいました。

「次回の完成を目指して来てください!」という神田先生の言葉で第 1 回が終了しました。

6 月 30 日

運針をしてから刺し子が始まりました。前回の続きを行う方、2 枚目を作り始める方など歓談しながらのんびりとした時間を過ごしました。

刺し子は基本的に並縫いで進めていく為にとても簡単です。古きからあり、布を縫い合わせることで丈夫にしたり保温性を高めたり、客人が使う布に縫うことで敬意を示したり、以前武士であったことの誇りを忘れないために兜や鎧の形を服に縫い付けたこともあったそうです。

私自身 3 ヶ月前に友人と刺し子部を立ち上げたばかりですが、針を進める楽しさや完成した時の喜びで夢中になっています。子どもを見守りながら、また夜静かな時間にもチクチクと穏やかな時間が過ごせています。

今回の講座で、沢山の方とも歓談しながら出来る刺し子に改めて魅力を感じました。古き良き伝統として刺し子を 100 年先にも繋げていけたらと思った Y100 企画の素晴らしい時間でした。



(4 年保護者 紙谷愛)

# インフォメーション

～詳細やお申込方法については学園サイトをご覧ください～

## 連続講座

### シュタイナー教育を知りたい！④

講演会「豊かに育つ子どもたちの話」

日時：2019年9月1日（日） 10:00～12:00

会場：十日市場校舎

参加費：1回/1,500円（NPO会員 1,300円）

定員：各20名

お申し込みは学園事務局までお願いいたします。

## 1 学期月例祭

日にち：7月20日（土）

時間：11:00～12:20

会場：緑公会堂

お申込み、お問い合わせは、学園事務局までお願いします。

月例祭終了後、13:00より、100周年記念アクションとして、日本各地のシュタイナー学校で演奏活動する「クラヴェール弦楽四重奏団による演奏会」が同会場で開催されます。どうぞ、ご覧ください。

対象年齢 小学4年生以上。

## おとうさん茶話会 & おかあさんとこどもの手しごとカフェ

日時：9月1日（日） 13:00～15:00

要申込み 参加費無料

会場など詳細は学園WEBサイトでご確認ください。

## 連続講座 多面的シュタイナー考察 ⑩

「大人のゼミ」

講師：吉田敦彦（大阪府立大学副学長）

日にち：9月23日（月祝）

時間：10:00～12:00

会場：十日市場校舎

参加費：一般2,000円（NPO会員1,500円）

お子様連れの参加はご遠慮いただいております。

お申し込み、お問い合わせは、学園事務局までお願いします。

## かぞくのフェスティバル

### こどもといっしょのくらしかた 夕涼み

今年も、どうぞ、かぞくみんなで遊びに来てください。

日にち：8月31日（土）

時間：15:00～17:30

入場無料・各種参加費無料

詳細は、こどもといっしょのくらしかた facebook ページ、または学園WEBサイトをご覧ください。

## 2020年度入学説明会

【A】「シュタイナー教育とは」「教育内容について」

【B】「保護者の学園への関わりについて」

※A→Bの順で両方の回に必ずご出席ください。

9/14（土）、9/22（日）入学説明会 A

9/21（土）、9/29（日）入学説明会 B

詳細は学園WEBサイトをご覧ください。

## \* 8/10～8/20 夏季休業のお知らせ \*

8月10日（土）～8月20日（火）まで、事務局業務をお休みさせていただきます。

※ 夏期休暇期間以外の業務日は暦通りとなります。

## ☆ 星の金貨より ☆

8/10～20は、事務局も夏休みになります。

星の金貨もお休みいたします。

それ以外の平日は、事務局にお声がけください。

文具類、季節のポストカード、虹染め布、木工品、書籍、ヴェレダ商品、ハーブティーなど取り揃えております。

どうぞお立ち寄りください。

お問い合わせ e-mail:hoshi-kinka@freeml.com

ブログ <http://hosinokinka.blog100.fc2.com/>



お問合せ、お申込み先

横浜シュタイナー学園事務局

Tel&Fax: 045-922-3107 e-mail: [gakuen-info@yokohama-steiner.jp](mailto:gakuen-info@yokohama-steiner.jp)

【会費・ご寄付等お振込先】

郵便振替： 00260-0-130702

加入者名：特定非営利活動法人横浜シュタイナー学園

ゆうちょ銀行：店番 029 支店名 029 店（ベニキリ店）当座 013702

ご寄付ありがとうございます。  
大切に活用させていただきます。  
（順不同・敬称略）

成都東蜀華徳福小学・・・胡英、熊蕭然、星の金貨

心より感謝申し上げます。

横浜シュタイナー学園

～Newsletter 第123号～

2019年7月16日発行

編集：広報の会

発行：NPO法人 横浜シュタイナー学園

<https://yokohama-steiner.jp>

〒226-0016 横浜市緑区霧が丘3丁目1-20

TEL/FAX 045-922-3107

※ 掲載内容の無断転載をお断りします